

いざ、『聖地・甲子園』へ

―伊万里高等学校 第90回記念選抜高等学校野球大会出場―

Imari
High
School



1月26日、午後3時過ぎ。校長室に鳴り響く着信音。それは、待ちに待った朗報を告げる電話でした。
伊万里高等学校が、第90回記念選抜高等学校野球大会に出場します。伊西地区からの甲子園出場は、平成18年夏の伊万里商業、平成21年夏の伊万里農林、そして平成25年夏の有田工業に続いて4校目。選抜の『21世紀枠』での出場は県内で初の快挙です。



松浦の富士朝焼け

照るところ

いのち
生命の泉
ここに湧く

(伊万里高等学校校歌より)

『21世紀枠』での出場

今回の伊万里高校の甲子園出場で注目されるのは、県内で初めて21世紀枠に選出されたということ。

21世紀枠とは、各地区で行われる秋季大会の成績のみでなく、練習環境など困難な状況の克服や、文武両道で他校の模範となるなどの実績を評価し、甲子園出場の機会を与える特別枠で、全国から3校が選出されます。

伊万里高校は、県内有数の進学校でありながら、短い時間で効率的な練習を行い、高いレベルで文武両道を実現していることや、少年野球大会の審判をボランティアで行うなどの地域貢献が評価され、3校の1つに選ばれました。

市の甲子園プロジェクト(※)による支援も、選出の一助となりました。

※市の甲子園プロジェクト市では、平成25年度から『甲子園プロジェクト係』を設置しています。これまで、県外強豪校との強化試合をはじめ、野球教室、少年球児の甲子園派遣事業などを実施し、野球技術の向上、競技人口の拡大などに取り組んできました。

これが伊高の練習だ

「考えて動け考えて！」

吉原監督の厳しい指示が飛ぶ中、必死でボールに食らいつく部員たち。甲子園出場が決まってから3週間近くが経った2月14日、伊高野球部の練習グラウンドを訪れました。

選抜大会の選考において評価された、限られた時間内の集中的・効率的な練習とはどんなものなのでしょうか。下がこの日に行われた練習です。

2月14日の練習

- 17:00 校舎を出てグラウンドへ移動、着替え
- 17:10 ウォーミングアップ
- 17:16 スパイクに履き替え
- 17:18 キャッチボール
- 17:23 7分間ノック開始
内・外野に分かれて
次々に捕球と送球
ミスをしてやり直しはなし
- 17:30 ノック終了
- 17:33 試合形式での練習開始
4回ウラまで
- 18:00 後片付け、グラウンド整備
- 18:16 集合、監督訓示
- 18:30 完全下校



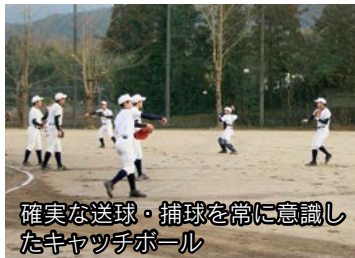
実戦さながらの練習



授業が終わったら駆け足で移動



練習の残り時間を示す時計



確実な送球・捕球を常に意識したキャッチボール



最後まで監督からの厳しい指摘がありました



内野手へのノック。各ポジションに次々にボールが飛びます

7時限授業のうえに試験前とあって、いつもよりさらに短い練習時間でした。グラウンドに入ってから下校までピツタリ90分。正味の練習時間は50分程度です。動きが遅かったり、つまらないミスをしたりしようものなら、その場で監督から厳しく指摘されます。しかし、ミスをしたからといって『もう一度』はありません。少ない時間だからこそ一球一球に集中する。まさに1分1秒も無駄にしない練習です。逆に言えば、甲子園出場を控えていても学業をおろそかにしない。高校野球本来の姿を目にした気がします。

吉原監督に聞きました

◆21世紀枠での出場について
どう思いますか。

様々な取り組みに対しての評価だと思っています。市の甲子園プロジェクトとのつながりについても大変感謝しています。限られた条件の中で最大限の努力をするというのが高校生のあるべき姿。それは今後も変えずにやっていきたいと思っています。公立の進学校でもここまで戦えるというところを見せたいですね。

◆とても厳しい指導です。どのような思いで指導されていますか。

精神的にも体力的にも技術的にも、本当はもっと時間をかけて指導をしたいのですが、練習時間が短いのでそれはできません。ワンプレーに対して常にマックスの状態でも臨む練習をしないと、とても甲子園で他のチームと太刀打ちできない。そういう意識を持ってもらうため、あえて厳

しい言葉で指導しています。

◆部員には野球を通じてどんな人間に成長してほしいですか。

諦めずに努力する人、そして言い訳をしない人になってほしいです。

◆唐津商業の監督時代に甲子園を経験されました。甲子園とは何でしょうか。

やはり『あこがれ』ですね。それと、一生懸命努力しても必ず行けるわけではないですが、少なくとも努力していないチームが行けるところではない。精一杯努力したことへのご褒美ですね。

◆市民にメッセージをお願いします。

今回は、市があつての選出だと思っています。学校としての努力の積み重ねはもちろんです。市民の皆さんは伊万里市の中にあります。甲子園プロジェクトの取り組みをはじめ、市民の皆さんの応援があつて勝ち取ることができたのです。伊万里の名を背負って戦うわけですから、市民の皆さんに甲子園でのハットとした姿を見せたいと思います。



伊万里高等学校
野球部 吉原 彰宏 監督 (43)

PROFILE 武雄市出身
武雄高校 — 福岡教育大学卒業
1998年から 唐津西高校野球部監督
2005年から 唐津商業高校野球部監督
2011年 唐津商業が夏の甲子園に出場
2014年から 伊万里高校野球部監督
保健体育科教諭

主将からひと言



伊万里高校野球部
犬塚 晃海 主将 (2年)

甲子園での試合がどんどん近づいてきて、いよいよだなあと実感しています。練習にも一段と気合いが入ります。短い期間しか残されていませんが、これからもっと部員同士で切磋琢磨し、ひと回り成長して甲子園に臨みたいです。

まずは1回戦突破を目標に頑張ります。応援よろしくをお願いします。

私たちが支えます



伊万里高校野球部マネージャー
柳本 亜月さん (右、2年)
西牟田 真緒さん (2年)

伊高野球部には2年生2人、1年生3人、計5人のマネージャーがいます。練習の補助やスコア付けなどいろいろな仕事がありますが、体調が悪そうな部員がないかどうかには特に気を配っています。体に気をつけて練習を頑張ってください。

甲子園では、楽しくプレーするみんなの笑顔が見たいです。

伊万里高校野球部の
甲子園での健闘を祈ります！